

タイトル 12P

料理活動のリスト活用が安心感に繋がり混乱の減少につながった症例

-リストの使い方-

所属と名前

本文 10p  
行間 1.0

【はじめに】

日常生活場面での不安が増加し、他者任せで依存的な行動をとっているA氏に対し、調理活動を通して、自立した問題解決法の獲得を目的に介入を行った。結果、不安が軽減され、行動が保障された事が安心感となり、生活負担が軽減したため以下に報告する。尚、当院倫理委員会の承認及び書面・口頭にて同意を得ている。

【症例紹介】

A氏は統合失調症の50歳代女性で、精神科デイケアを利用し実家で生活していた。家族の希望もあり、X年Y月自立訓練事業所へ入所。Y+5ヶ月後、他者任せで依存的な言動がみられ、特に調理に対するこだわりが強く、職員への依存が強くなっていった。

【作業療法評価】

精神障害者ケアアセスメント66点である。特に調理(2/5点)へのこだわりが強く、必ず毎日したいと思っているが、ストレス対処、意思表示(ともに2/5点)ともに低く、不安が強まる事で混乱が生じ、一人で解決することが難しい。IQ59(WAIS-III)、言語性64、動作性60)であり、言葉で説明する事、2つの作業を同時に遂行することも苦手である。

【介入の基本方針】

A氏にとって「調理」がどれだけ調子が悪くても必ず毎日したい活動であり、重要度の高い部分である。また、退所後の生活を考えた上でも自分で対処できるようになる必要があると考えたため「調理」に焦点を当て、他職種と情報共有し関わる事とした。

【作業療法実施計画】

実施期間は3ヶ月で、目標は、他者任せで依存的にならず、一人で調理可能となる事とした。退所後の生活に向けて、料理メニューと材料表(以下リスト)を作成し、リストを見ながら一人で作業を行うよう促す。段階的に作業を分け、介入を徐々に減らしていく事で、出来る作業を増やしていき、依存せずに自分で問題対処できるようアプローチする。

【介入経過】

夕食の準備前に両腕で行い、リストを作成と一緒に行った。質問に対して答えた事をリストに記入し、本人に渡した。事前の一工程ずつ確認していく事で、混乱は生じなかった。またリストを見ながら一人で準備するよう伝え、依存しないよう促した。本人も徐々に納得し、混乱なく一人で準備が出来た。調理場面では、同じく不安はあり「一緒にやって」等職員への依存的な発言は多くみられたが、その都度、リストを見ながら取り組むように声掛けを行い、OTRが同じ空間で別の作業を行う事で不安軽減を促した。依存的な発言が見られた時は、リストを確認する事で作業ができた。毎日一人で調理できるか確認し、出来ない物の場合は同じくリストを作成した。初めて作るメニューの際は、不安が強くなるが繰り返すことで定着し、一人で作る事が出来る様になった。新しものを作る際は、不安になるからと自らリスト作成を希望し、作成を一緒に行う事で他者任せな言動は無くなった。レポートリーを決めた後はリストを見ながら一人で調理可能となる。

【最終評価】精神障害者ケアアセスメント

家事2-3(内調理の項目2-4)

【考察】

本人の依存的な特徴について、施設入所前は母に依存的で、母に話をして対処してもらっていた。施設入所してからは、依存対象である母は近くにおらず、スタッフへ依存対象が移行したと考えられる。母とは違い自分で行うよう促されるため、思っていたように周りが行動してくれないことから混乱し不安が高まっていたと考える。リスト作りについては、困った際のお守りの様な物となり本人の安心感につながり、不安感が軽減したのではないかと考える。不安軽減がA氏のゆとりにつながり混乱が減ったものと考えられる。

【まとめ】

退所後一人暮らしを考は多い。残りの施設生様に支援を行って

余白  
15mm

※文字数

1500字以内

余白  
20mm

※余白 上 20 mm 下 20 mm 左右 15mm